

2010年12月27日

福岡県議会議員(古賀市選挙区)候補予定者

田辺一城

私は、古賀市に育ち、県立福岡高校、慶應義塾大学法学部を卒業後、毎日新聞で福井支局と大阪本社社会部に勤務しました。障害のある方やお年寄りの地域社会における生き方、路上生活者、子どもの貧困など社会的に弱い立場にある人の問題、紛争地の現実などを中心に取材してきました。また、大阪府警や大阪府の橋下徹知事を担当してきました。

これから国のかたちが変わります。その主役は地方です。地方で出来ることは地方でやる。国に権限移譲を迫り、地域の実情にあった形で、自ら都市を経営していく。福岡が東京や大阪と肩を並べ、さらにアジアの都市間競争に打ち勝つためには、政治のリーダーシップが必要です。しかし、今の県議会は、その責任を自覚しているでしょうか。近年、議員の手による政策条例の成立は「ゼロ」。首長の提案を待つだけの機関ではなく、自ら政策を打ち立てる議会へ、意識改革すべきです。そうでなければ、霞が関にバカにされるだけです。まずは、議会基本条例の制定を目指します。

国でも、地方でも、政治が「家業化」しています。私はこれを許しません。特定の業界の利益、自らや家族の利益、特権意識のために政治を利用してはならない。政治の目的は、あらゆる立場の人々の生活の場における「平和と安定」にあると考えます。そのためには、市民、国民の声を聞き、政策に反映すべきです。人の「思い」を聞き、活かします。

教育、医療、福祉の充実を図ります。2人の子どもを育てる父親の立場から、待機児童の解消に努め、共働き、ひとり親家庭を支援します。お年寄りや障害のある方が、地域の中で当たり前生きていける社会をつくれます。

経済を強くします。税減免などの特区を国に求め、企業誘致、育成、雇用拡大を図り、道州制の実現も見据え、中長期的に九州を下支えできる都市経営を目指します。農業支援として、各種施策でセーフティネットの整備を図り、地域ブランドを世界に発信します。

これらは、地方分権改革を進めることで、より実効性を持ちます。分権を推進し、住民サービスの向上を図る。そのために議会を改革し、行政に政策提案できる力をつける。

出馬を決意した11月の段階では考えもしませんでした。私のふるさととは、今、市長選を巡る混乱が市民を二分しています。まちを回り、人の声を聞くにつけ、強い政治不信を生み、不幸な状況に陥っている、と感じています。すべての人が互いを理解し、子どもの世代が夢と希望の持てるふるさとをつくりたい。私は、私自身が、古賀の現状を打開するきっかけになりたい、とも思っています。